



譽田（ほんだ）八幡宮
引田の氏神で秋の大祭が10月の第2日曜日に行われます。御輿渡御の際の勇壮な「投げ奴」は有名です。



かめびし屋
宝暦3（1753）年創業の老舗醤油屋。伝統製法「むしろこうじ」製法と築200年以上の蔵で長期熟成された醤油は、独特の風味と香りが特徴です。かめびし醤油の名称は歴史が長く、氏神のある亀山の「かめ」と醬（ひしお）から取ったといわれています。
●国登録有形文化財

～東かがわ市～ 引田まち歩きマップ

東かがわ 手袋ギャラリー



東かがわ市は全国シェア90%を誇る手袋の産地です。昔、手袋工場として使われていた蔵で、昭和の古いマシンや道具を展示、手袋の販売や革小物作りもできます。



讃州井筒屋敷

佐野家（屋号井筒屋）は高松藩の郷士といわれています。元禄年間（1688～1704）に醤油醸造を開始し、宝暦年間（1789～1801）には酒の醸造も行っています。江戸末期からは農地の取得と耕地整理事業を進め、大正時代から昭和初期にかけて当主となった第13代新平は耕地整理だけでなく、会社の起業や県会議員など名望家として地域産業の向上や近代化に尽力しました。醸造業は平成9年に廃業し、現在は観光施設となっています。建物は、江戸後期から明治期に建築されたもので、屋敷内の庭園も見所です。また、敷地内のホルトノキは香川県の保存木となっています。



円立院
引田では唯一の法華宗の寺院です。弘安年間（1278～88）に甲斐国から秋山氏が翼山に建立した三十番神を発祥とするほか、成立は諸説あります。



松村家
江戸時代中期から引田村魚の棚において多嶋屋の屋号で魚の卸商を営んでいた商家です。建物は江戸時代末期の建築です。
●国登録有形文化財



泉家
海産物の販売を本業とするかわら、酒、たばこの小売を行う商家で、建物は江戸時代末期の建築です。
●国登録有形文化財



旧松村医院
昭和初期に建てられた建物。表の建物は母屋、裏の蔵は清酒の製造に使っていました。その後、医院として使われていました。
●国登録有形文化財



笠屋邸
江戸時代から続いた商家で「力の素」という辛口の清酒を製造販売していました。



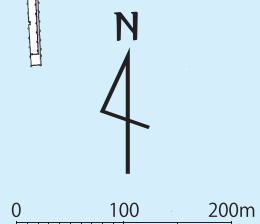
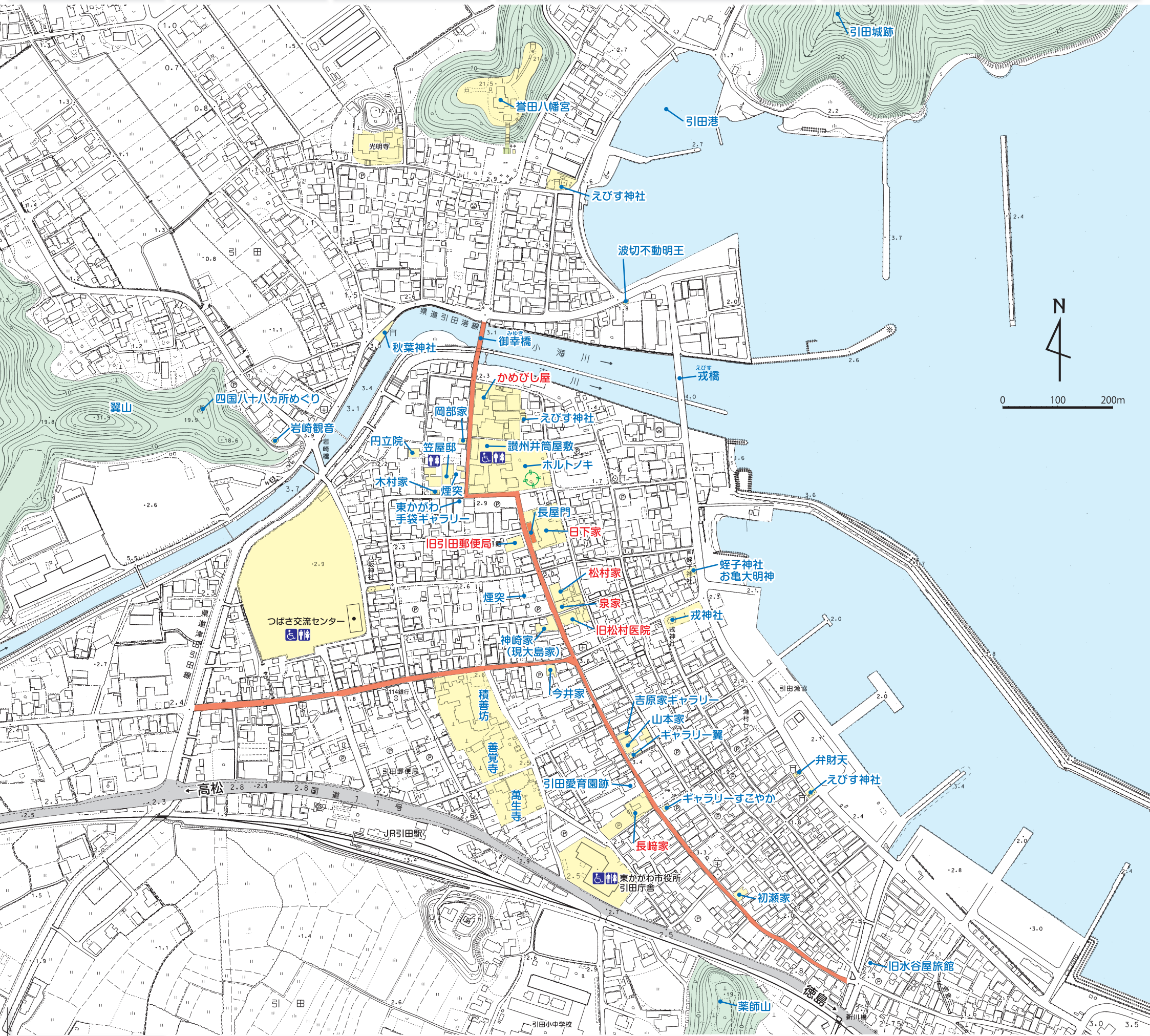
日下家
江戸時代には代々引田村の庄屋、大内郡の大庄屋を務めてきた家です。屋敷には風格ある長屋門、母屋が残っています。
●国登録有形文化財



旧引田郵便局
昭和7（1932）年に日下家により建築された建物で、昭和52年まで開局していました。
●国登録有形文化財



木村家
江戸時代から続く医者の家。建物は井筒屋前で醤油醸造を営んでいた四宮家（屋号花屋）から移築したものと伝えられています。



積善坊（しゃくぜんぼう）
真言宗寺院で行基開基と伝えられています。引田城築城の生駒親正や高松藩初代藩主松平頼重が堂宇を修繕・新築しました。瀬戸内寂聴さんゆかりの寺です。



善覚寺
浄土宗寺院で開基は不詳ですが、元は内陸の小海にあったと伝えられています。寺の門は、引田城の門を移築したと伝わっています。



萬生寺（まんしょうじ）
永正年間（1504～21）に引田郷地頭四宮氏の菩提寺として建立されたと伝えられています。戦後、「フギの女王」として一世風靡した笠置シズ子さんゆかりの寺です。



神崎家（屋号：米屋）（現大島家）
江戸初期から醤油醸造や廻船業で財をなし、引田村一の豪商でした。



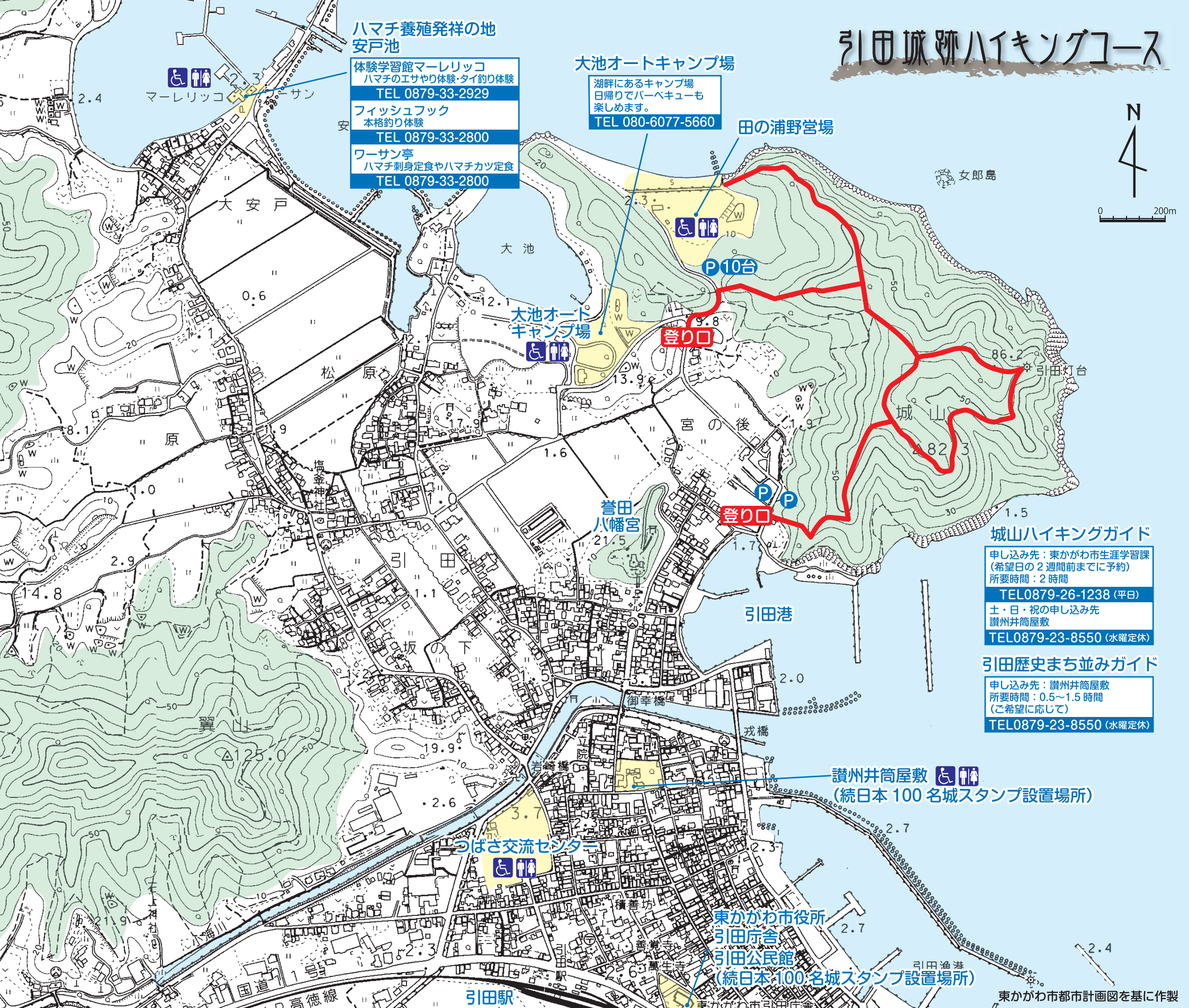
山本家
明治37（1904）年に醤油醸造を始めた醸造元です。建物は明治時代の建築です。



引田愛育園跡
昭和2（1927）年に阿部アキがこの地で香川県で初めての常設託児所を開設しました。平成31年3月閉園。写真は昭和初期の園舎。



長崎家
江戸時代から雑貨商を営み、明治41（1908）年からは醤油醸造を始めました。当地出身の東大総長南原繁先生療養の場所です。
●国登録有形文化財



ハマチ養殖発祥の地 安戸池

体験学習館マーレリッコ
ハマチのエサやり体験・タイ釣り体験
TEL 0879-33-2929

フィッシュブック
本格釣り体験
TEL 0879-33-2800

ワースン亭
ハマチ刺身定食やハマチカツ定食
TEL 0879-33-2800

大池オートキャンプ場

湖畔にあるキャンプ場
日帰りでバーベキューも
楽しめます。
TEL 080-6077-5660

田の浦野営場

城山ハイキングガイド

申し込み先：東かがわ市生涯学習課
(希望日の2週間前までに予約)
所要時間：2時間
TEL0879-26-1238 (平日)
土・日・祝の申し込み先
讃州井筒屋敷
TEL0879-23-8550 (水曜定休)

引田歴史まち並みガイド

申し込み先：讃州井筒屋敷
所要時間：0.5～1.5時間
(ご希望に応じて)
TEL0879-23-8550 (水曜定休)

讃州井筒屋敷
(続日本100名城スタンプ設置場所)

東かがわ市役所
引田庁舎
引田公民館
(続日本100名城スタンプ設置場所)

～まちの特徴など～

つし二階と 虫籠窓(むしこまど)

つし二階は、二階の天井が通常より低い造りのことです。虫籠窓とは町家のつし二階に見られる窓です。その名の通り、形が虫籠(むしかご)に似ていることから名付けられました。虫籠窓の形で、その町家が造られたおおよその時代が分かることがあります。



風の港と引田のまち並み

瀬戸内海を運航する船の要港として栄えてきた引田。城山のふもと、湾は風よけの良港(風待ち港)となっていました。ここで船はよい風が来るのを待ち、その間、船人は引田のまちで滞在していました。そのため、引田は料亭、商店、旅館などが100軒程並び、賑わいあるまちとなりました。各地からの船が入り出しているため、物流にも恵まれ、醤油や酒の醸造が栄えなくなりました。



長屋門

長屋門は、客人のお付の人が寝泊まりをしたり、使用人の住居・納屋・作業所などに使われました。日下家の長屋門には馬つなぎの金具が残っています。

引田城跡(城山) 国史跡 続日本100名城



戦国時代には、阿波三好氏や土佐長宗我部氏との攻防の舞台となりました。戦国時代の終わりごろの天正15年(1587)に、讃岐国を治めることとなった生駒氏は讃岐国支配の拠点とする高松城と並行して、東讃地方の支城として引田城を利用していました。引田城跡には、生駒氏が築いた自然石を積んだ野面積みの石垣が残っているほか、建物の礎石やたくさんの瓦がみつかります。ガイドさんとハイキングもできます(予約制)。



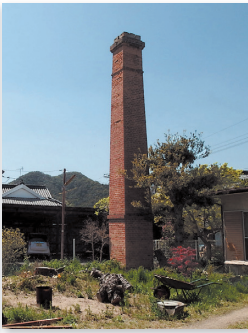
入母屋造り 本瓦葺き漆喰壁

本町通りに面する昔ながらの商家は、入母屋造り本瓦葺きの家が多く、裕福であったことがうかがえます。漆喰壁の家が多いが、炭を混ぜた漆喰の家もあります。



海に見える路地

まち並みは、誉田八幡宮を北端に北西から南東に約1kmに渡っています。メインストリートには商家が並び「オカ」と呼ばれ、それに平行した海側の通りは漁師町で「ハマ」と呼ばれていました。そのメインストリートから直角に海に向かって下る幾筋もの細い路地があります。家々の板壁に挟まれた人一人がやっと通る道、その奥に瀬戸の小さな海が光っています。漁家と町家を結ぶ生活の匂いがする道です。



煙突

酒醸造の家があり、醸造のときに使われていた煙突が2カ所に残っています。煙突はレンガ造りで地面に直接設置されています。景観のアクセントになっています。



引田ひなまつり

2月下旬から3月3日までの5日間、豪華な飾りつけの雛人形を、引田のまち並み一帯に展示します。3月2日の夜には、町並みを行灯(あんどん)でライトアップする「宵雛まつり」が催されます。